

福岡市総合計画審議会
第2回 都市の成長部会
会議録

日時 平成24年7月17日(火) 15時30分

場所 天神ビル11階 11号会議室

出席者（五十音順、敬称略）

青木 計世	池内比呂子	小俣 郁雄
甲斐 敏洋	小塙 正己	後藤 太一
高比良拓児	富永 周行	福田まもる
藤野 直人	古川 清文	星野 裕志
水城 四郎	村上 樹人	安浦 寛人
矢田 信浩	山倉千賀子	李 環宇

福岡市総合計画審議会
第2回 都市の成長部会
〔平成24年7月17日（火）〕

開会

1 開会

○星野部会長 それでは、時間になりましたので、まだ今日ご出席の予定の委員の方で二、三名おいでになられていない方がいらっしゃいますけれども、今日は非常に議題が多く、時間も限られておりますので、これから福岡市の総合計画審議会第2回都市の成長部会を開会いたします。

それでは、まず事務局から連絡事項をお願いいたします。

○事務局（光山） 会議の冒頭に当たりまして、本審議会の委員で生活の質部会に所属されております南区自治組織協議会会長の中村健士委員が先週の7月14日の土曜日にご逝去されましたので、謹んでお知らせしたいと思います。

中村委員は7月10日の第1回の生活の質部会にご出席いただいたおりましたので、突然の訃報に私どももただ驚いているばかりでございます。中村委員の生前のご厚情に深く感謝いたしますとともに、本市への多大なるご功績をしのびまして、ご冥福をお祈りしたいと思っております。

ご報告は以上でございます。

○星野部会長 中村委員のご冥福をお祈りいたします。

それでは、本日は部会の2回目として、基本計画の各論、分野別の四つの目標と空間構成目標について議論を行います。

それでは、まず事務局から今日の資料の確認をお願いいたします。

○事務局（藤本） それでは、資料を確認させていただきます。

まず、次第でございます。その次、資料1は今後の審議スケジュール、いつものものをおつけしております。本日が部会の2回目ということで、計画（各論）の分野別目標と空間構成目標をご審議いただきます。

次に、資料2は「福岡市の財政構造と今後の財政見通し」ということで、こちらにつきましては、後ほど光山よりご説明を差し上げたいと思います。

次、資料3は、本日ご議論いただきます総合計画の素案の計画各論でございます。これは資料4にありますとおり、前回、1回目の会議でお渡ししたものから変更している

ところがございますので、今回は新しくこの部分だけ抜き出して、刷り直しております。文章は変えておりませんで、主に前回検討中ということで多かった成果指標等について、できるだけ埋めた形でお示ししているところでございます。

次が資料5は基本計画の中の空間構成目標で、前回はサンプルということでお示ししていなかったものでございます。

資料6は、前回、生活の質部会で、人口のデータの見方の中で5歳刻みのものが欲しいというようなご指摘がございましたので、追加でお出ししております。

資料7は、第1回目の総会でお渡しした施策検討用の参考資料の中で、施策の4-4と8-4について凡例を追加したり、数字の間違いを直したものをお配りしているところでございます。

もう一枚、第1回部会の議事録について、未定稿のものを配付しております。ご確認いただきまして、修正点がございましたら、7月23日までにご連絡いただければと考えております。

それから、申しおくれましたけれども、本日欠席の委員のご紹介をいたします。阿部委員、後藤俊介委員、末松委員、出口委員、鍋山委員、西村委員がご欠席ということで伺っております。高比良委員が少し遅れられるそうです。

説明は以上でございます。

○星野部会長 前回、委員から、この基本計画の中で、こんな福岡をつくりたいという話をする中で財政的な裏づけはどうなっているのかというご質問をいただきました。今回、この審議会と同時に並行して委員会が持たれています福岡市の財政構造と今後の財政見直しについて、光山部長からご説明をいただきます。

○事務局（光山） それでは、右肩に資料2と書かれましたA4横の資料に沿いまして、私から簡単にご説明させていただきたいと思います。本日は時間の関係もございますので、ポイントだけに絞りましてご説明さしあげます。

先ほど部会長からもありましたように、現在、自立分権型行財政改革に関する有識者会議が開かれております。本審議会の委員からは池内委員と吉田委員にもご参加いただいて、改革についても有識者会議で同時並行的にご議論いただいてございます。その中で、財政構造と今後の財政見通しの説明がありました。あわせてその資料についてご説明をさせていただきます。

まず、1ページをお開きください。1ページにつきましては、割愛をさせていただきます。

2ページは福岡市の歳入構造です。一般会計の予算規模は約7,600億円強です。その

うち右側の半分を占めています一般財源、こちらは使途が自由に使えるものでございます。およそ半分の3,882億円でございます。残りの半分が国庫補助金や特定の事業に限られる特定財源となっているところです。この一般財源3,882億円のうち市税が約2,641億円ということで、一般財源の約7割を占めているところです。

次の3ページをお願いします。税収構造の内訳を書かせていただいております。2,641億円の市税のうち、右側に個人市民税が809億円、法人市民税が362億円ということで、所得・利益に係るものが市税の全体の約45%を占めています。その次に多いものは固定資産税で、1,000億強の全体の40%、あわせまして都市計画税が200億円強あります。そのほか大きいものとしては、たばこ税が110億円程度で、個人市民税、法人市民税といった所得利益係るもの、それから保有資産に係る固定資産税と都市計画税、そういういったものが市税の大部分を占めています。

次の4ページは、先ほど言いました一般会計の規模の約半分を占めている、自由に使えるお金である一般財源の、過去10年ほどの推移です。平成14年度が約4,000億あったものが今年の平成24年度の当初予算では3,882億円ということで、マクロでいうと減少しています。ブルーで示しておりますのが市税で、特に平成20年の秋のリーマンショック以降、市税収入は平成19年と比べると約100億円ぐらい減少しています。

次のページ、5ページをお願いします。歳出の部分の内訳のご説明です。一般会計の予算の歳出につきまして、性質別に見たものでございまして、人件費や物件費、維持補修費、そういういったものです。左側が歳出ベースになっておりまして、7,662億円ですが、ここからは少し、使えるお金がどう充当されているかという視点で見たいと思います。

右側の一般財源ベースで、これらの用途に使われているお金を見ますと、右肩の上に人件費、右下に扶助費というのがございます。583億円です。それから、左側に公債費という借金返済分があります。これが905億円ということで、これら人件費、扶助費、公債費という義務的経費と言われているものの合計しますと、実は2,200億円強使っておりまして、一般財源の約6割を占めています。

左下のほうに普通建設事業等ということで、4%の黄色がございます。これは公共事業と言われているもので、公共事業に対する財源としては約4%程度となっております。

6ページは目的別でございますが、説明は割愛させていただきます。

それから、7ページ、8ページをお開きください。

福岡市の借金が多いという説明です。先ほど公債費で約900億円強の支出をしているというふうにお話ししました。8ページのグラフは福岡市全体の市債の状況で、左側のグラフは市債残高の推移（全会計）です。平成16年のピーク時に約2兆7,000億円ございましたが、財政健全化の取り組み、市債発行額の抑制等々によりまして、現在では約2兆4,000億ということで、ピークからは2,400億円程度減少しているということですが、

右側のグラフで見ますように、市民1人当たりの市債残高を比較いたしますと、実は大阪市に次いで2番目、174万円ということで、いずれにしても高いということです。

福岡市の市債残高がなぜこういうふうに高くなっているかの説明を7ページに記載しております。昭和60年から平成元年ぐらいにかけまして、よかトピアや国体関連の公共施設の支出がございました。一番ピークだったのは、平成7年のユニバーシアードに向けまして施設整備や道路関係の整備をした関係で、市債発行額、いわゆる当該年度にした借金の額が平成6年に1,300億を超えるという、かなり大きな借金をしております。その後、バブル崩壊後の国の景気対策などに伴いまして、1,000億円超の市債発行額をずっと続けております。さすがにこれではまずかろうということで、平成12年ぐらいから市債発行額の抑制を図っております。

棒グラフが市債発行額で、借金返しの額、毎年のローンの返済額が公債費と言われている折れ線グラフであらわしているものです。近年ではその額が約1,000億円程度になっています。

もう一つトピックとしてお知らせしておきたいのが、棒グラフの中に平成13年度からピンクの色が出ております。通常、市債の発行、借金は、公共事業等の長期にわたって市民が利用する道路や建物などに関する支出に対象が限られるのですが、その額は実は昭和61～62年ぐらいのレベルまで抑制しています。一定の整備水準を達成しましたので、現状では抑制しています。ピンクであらわしている部分は地方交付税ということで、国から地方に対してお金をいただいている部分ですが、国の財政が非常に厳しいということで、地方に借金で肩がわりをさせられることが非常に増えてきております。これがピンクであらわしている部分でございまして、こちらが財政運営上の課題となっております。

9ページをお願いします。歳出構造の特徴ということで、他都市との比較をあらわしております。左側の性質別を見ていただきますと、政令市平均がピンクのグラフになっております。比較しますと、福岡市は、人件費はほかの政令市より低うございますが、先ほど言いましたように、公債費部分が他都市に比べて大きくなっております。

10ページにつきましては、先ほどご説明をしました歳出についての10年間の推移をあらわしています。一番飛び出ている部分が扶助費ということで、児童福祉や高齢者福祉、障がい者福祉、生活保護、そういうものに対して国や地方団体が支援を行うものです。こちらが平成13年と比べますと約6割増という形に大きく増えております。一方で普通建設事業——公共事業と言われているものにつきましては、一定の整備水準に達したということもありますて、近年、特に10年前と比べますと約半分になっています。

12ページをお願いします。これまで現在の福岡市全体の財政構造と市税、支出の中身等についての説明でございましたが、ここからは今後の見通しです。

表題に大きく書いておりますように、「大幅な伸びが期待できない一般財源」ということです。一般会計の約半分を占めます、自由に使えるお金でございます一般財源につきましては、現在の政府の中長期的試算をベースに試算をいたしますと、ほぼ横ばいということで、大きな伸びは期待できません。薄い緑色でかいています市税につきましても、若干の微増というところで試算をしています。

次のページをお願いします。

13ページにつきましては、本審議会でも資料とし、内容に記載しております福岡市の推計人口です。平成47年（2035年）ごろ160万人に達するということでございますが、特に今後の高齢化の問題といたしましては、右側の棒グラフのように75歳以上の人口推計が約1.5倍ぐらいに増えることが推計をされています。こういった人口推計をベースに、次の14ページでは、医療や介護保険にかかる社会保障関係費の見通しをお示ししています。一番下が国民健康保険に関するお金、次が介護保険、その上が後期高齢者医療に対する必要な一般財源、これが10年後に約3割超の増加になると見込まれております。

16ページをお願いします。（3）経済的支援等ということで、人件費、公債費と並ぶ義務的経費の一つである扶助費、いわゆる社会保障関係費に類するものにつきましては、近年の生活保護世帯の増加や障がい福祉サービス等の増加、そういったことで、10年間でおおむね30%を超える増加になると見込んでいるところです。

18ページをお願いします。義務的経費のうち、もう一つの大きな割合を占めている公債費の推移については、約1,000億円程度の増加を見込んでいます。特に先ほどご説明しました地方交付税の代替措置でございます臨時財政対策債が最近増加しておりますので、それに伴って、今後も公債費はなかなか減っていかない、むしろ増えていくことが予想されています。

20ページをお願いします。もう一つ大きな話で、せんだっての部会でもございましたように、公共施設の維持管理費が今後も増えていくというところです。下は、管理している市有建築物の床面積の推移を折れ線グラフで示したものです。本市は昭和47年に政令市に移行いたしました。今年で約40年たっておりますので、その当時つくった施設等々が老朽化している。さらには、高度成長期に合わせまして、学校や市営住宅等を大量に整備してきております。今後そういうものを適切に維持更新していく必要があるということで、今後こういった経費も大きく増加していく見込みです。

これまでご説明しました内容を22ページにまとめております。今後の財政見通しの総括ということで文章で書いております。

まず、前提といたしましては、老人人口が増加し、生産年齢人口の割合が低下していくということ、特に75歳以上の後期高齢者は10年間で1.5倍に増えること、生活保護世帯、障がいのある方が引き続き増加していく可能性があるということ、それから、昭和

40年から50年に整備した公共施設等の老朽化し、大量更新時期を迎えます。歳入側の見込みといたしましては、市税はGDPの伸びを前提に微増ということですが、自由に使えるお金でございます一般財源の大幅な伸びは期待できないという状況です。一方で歳出の推計については、少子高齢化に当たりまして、伸び続ける社会保障関係費、なかなか減らない公債費、一番下の公共施設の維持管理経費等の増加ということがあります。収入はなかなか増えない、歳出は増えていくということで、今後、行財政改革の見直しをしっかりと行わなければ、重要事業の推進、新たな課題への対応のために使える財源が大幅に減少していくということです。そこで、この行財政改革の有識者会議に示した資料では、徹底した見直しを行って財源の確保に取り組むことで、暮らしの質の向上と都市の成長の実現を図っていくことが必要であると整理しております。

見返りは、その裏づけとなる、先ほどまで説明したことをまとめたデータです。説明は割愛させていただきます。

24ページです。今後の新たな財政健全化の取り組みということで、中ほどの部分といたしましては、基本姿勢といたしまして「財政的自立による持続可能な財政構造の確立へ」を目指に、るる検討を進めているところです。

26ページをお願いします。現在、先ほどからご説明しております行財政改革に関する有識者会議で、行財政改革の内容についてご審議をいただいているところでございますが、本審議会とそちらとの関係を含めて、プラン上の整理をしております。

左側が総合計画で、一番上の基本構想が「長期的にめざす都市像」です。こちらは目標年次はございません。その下の「まちづくりの目標や施策として総合的、体系的に示した10年間の長期計画」が基本計画です。こちらの二つをこの総合計画審議会でご審議いただいておりますが、その下に、実際にその基本計画を実施していく上で何をやっていくのか、具体的な施策や事業を示したのが実施計画（政策推進プラン）と言われているもので、これは4年間の中期計画になります。これと連動する形で、行財政改革プランということでございまして、行政運営の仕組みや発想、それから手法を抜本的に見直す行財政改革の基本的な方針を定めて、必要な財源を生み出していく、確保していくということです。何をするかというところが実施計画で、どういうものをどう見直していくかというところが行財政改革プランに当たるものです。

本総合計画審議会では、その上位の部分である、まちづくりの大きな方向性や方針を整理していただくためにご議論をいただいているものと認識しています。

最後に28ページをお願いします。

財政健全化に向けた取り組みとして具体的に何をやっていくかということについては、大きくは①から③の3点です。まず1点目は、税収も含めた歳入の確保をどう図っていくかということ、2点目は、一般財源のほぼ9割以上を占めます経常的な経費をどう徹

底して見直すことができるかということ、さらには、投資の選択と集中をどう図っていくかということということで、大きく3点に整理をしております。上に掲げておりますように、①と②につきましては、現在、全庁を挙げて約3,000あります事務事業の総点検——スプリングレビューというものをやっております。歳入の確保や経常的経費の見直しを現在図っています。

もう一つは、基本計画を推進していくための実施計画を整理する中で何をやっていくかという、投資の選択と集中を図るための検討を、この総合計画審議会の議論と並行しながら現在進めさせていただいているところです。

私のほうから、福岡市の財政構造と今後の財政見通しについて、簡単にご説明をさせていただきました。

○星野部会長 ありがとうございました。

今、光山部長からご説明は、今後、市税の大幅な増加が見込まれない中で公債費等の割合は非常に高まりしていく、そんな中で、行財政改革をしながらも必要なものはつくっていくという話だったと思います。ご説明いただいた内容とこの審議会の部会の内容は直接にリンクするものではありませんけれども、こちらはこちらで審議をいただいと、最終的にこれを調整していくことになろうかと思います。

今のご説明で質問いかがでしょうか。よろしいですか。安浦先生。

○安浦会長 非常に苦しいのはよくわかったんですけれども、例えばGDPが0.5%上がったら市税はどれくらい伸びるのかとか、1%上がればどれくらい伸びると考えられるのかというデータは出せないです。

○事務局（光山） 今回、10年間の試算をしております。12ページの下のほうに少し書いておりますが、市税収入等については、政府の経済財政の中長期試算にのっとった慎重シナリオということで、おおむね約1%強のGDPの伸びで試算をしています。

今のご質問について、少し財政のほうからご説明できますか。

○事務局（財政局） 財政調整課長の今村と申します。12ページにお示しをしております試算については、国の経済財政の中長期試算の慎重シナリオの数字を採用して、年平均1%強という想定をしております。これは、過去のGDPの伸びとその時点での福岡市の収税の伸びがどういう関係性を持ってきたのかということを一応数値で置き直して試算をしておりますので、これがさらに強気のシナリオとかだとどうなるとかいうような試算はできます。現時点で数字は持っておりませんけれども、お示しをすることは可能

だと考えます。

以上です。

○安浦会長 これは成長をどう定義するかにもよるのですが、要するに都市が成長し、GDPが伸びれば、例えば、税収が増え、生活保護世帯が減るという別の効果もあるわけですね。そういうものがどれくらいきいてくるかということで、成長をどれくらいプロモートすべきかが明確になると思います。もう一つの部会はお金がかかるほうの部会で、そことの関係が見えてくると思うので、工夫したデータを出していただけるならお願いしたいと思います。

○事務局（光山） 少し財政当局とご相談させていただきたいと思います。

○星野部会長 よろしいでしょうか。

○委員 質問が二つあります。

資料 20 ページで、アセットマネジメントに係る経費が増大する見通しであるということですが、これは金額ベースでは出ていません。次の 21 ページのアセット経費なるところには維持管理費含めて入っているという理解で正しいのでしょうか、正しくなければどう読んだらいいか教えてください。

もう一つが、総額7,600億の一般会計については理解したんですが、8,390億の特別会計と2,365億の企業会計に関して、一部インフラの投資並びに維持管理に係する部分があると思いますので、こちらの会計について、一般会計からの繰り入れは当面ないだろうという前提で考えてよろしいんでしょうかというのが二つ目の質問です。

○事務局（財政局） 財政調整課長です。

まず、20ページのアセット具体的な数字は今日の資料には入れておりませんけれども、21ページの棒グラフの中で緑色に塗っているところ、これをアセット経費というふうに表示しております。福岡市は平成22年度に市有建築物のアセットマネジメントを計画的に推進していくための実行計画をつくっておりました。その中で計画的に長寿命化をしていく、あるいは大規模な改修等をしていく経費というのを見ておりまして、この平成22年度時点の計画の数字の中には含まれております。

それから、もう一点、特別会計、企業会計等と一般会計の関係です。この同じ21ページの棒グラフの中に、「物件費など」とくくっている白いところがありまして、この中に、一般会計が当然負担すべき繰出金等を持っておる企業会計あるいは特別会計もござ

いますので、その繰出金の現時点の計画に基づく推計はこの中に含まれております。一応推計でございますので、変動することはございます。だから、一般会計が負担することではないというのではなくて、計画の中では一定の負担を想定しています。

すみません、資料の間違いがありましたので、訂正させてください。8ページの市民1人当たりの市債残高のページの単位が「（千円）」となってますが、「（万円）」の間違いです。訂正をいたします。

○星野部会長 ありがとうございました。よろしいですか。

2 審議（基本計画（各論））

○星野部会長 それでは、本日の審議に入ってもよろしいでしょうか。

本日は、今から2時間弱の間に二つ大きなことをする必要があります。一つ目が、この目標の5、6、7、8それぞれについて皆様からコメントをいただくということです。おそらくこれだけでも40分以上時間がとられるのではないかと思いますけれども、もうひとつ、空間構成目標というものについてご説明をいただいて、これについてご審議いただきます。この二つが今日のやるべきことです。

早速、目標に入ります。ご準備いただいているのは資料3で、まず、この5、6、7、8という各論に入ってもいいかどうかということです。もしお手元に前回配られた福岡市総合計画案がありましたら、21ページ目を開いていただけますでしょうか。今回お手元にある資料はこの後半部分、目標5の1以降なので、21ページをごらんください。

21ページの中に、二つの部会が審議するべき八つの目標が挙げられています。後半の目標5から8までがこの部会の担当するところで、目標5、6が「海と歴史と文化の魅力が人をひきつける都市」としての福岡のあり方、そして、「活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市」を目指す福岡としてあるべき姿が目標7、8で上げられているわけです。まず、この二つの大きな枠組みの中で、目標5、6、7、8を議論することについて、前回この部分は特に議論を行いませんでしたので、ご意見をいただきたいと思います。ただ、各論として目標の5、6、7、8を審議した後に、もう一度こちらに戻ってくる必要があるかと思いますので、最初の入り口部分だけでなかなかご意見が出ないとすれば、この目標5、6、7、8を審議して、最後にもう一度こちらへ戻ってきてくださいと思います。もし今の時点でこの5、6、7、8という立て方についてご質問、コメントがありますか。よろしいでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、最後にもう一度ここに戻ってくるという前提で、これから目標5に入りたいと思います。「磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられる」福岡と

いうことが目指す姿で、それに至る現状の問題、課題について書かれているのが目標5で、これについてコメント、ご質問がおありでしょうか。

磨かれた魅力にさまざまな人が引きつけられる福岡を目指すときに、目指す姿はこういったもので、それに至る問題点は2番というような書き方がしてあるわけです。

お願ひいたします。

○委員 目標5だけではないんですけれども、目標とか施策がお互いに重なり合っている部分があって、わかりにくいかなという印象を受けました。もっと整理するとか、表現の見直しを考えたほうがいいのではないかなと思いました。例えば、目標5のメインは観光であるような気がしましたし、目標の8は、国際的にビジネス客を呼び込むとか、そういうことが書いてあって、ぱっと見たときわかりにくいかなという印象を受けました。

あとは、細かくなりますけれども、施策でも5-1と5-3は非常にダブり感があります。違いは何でしょうか。

○星野部会長 今、目標の5と目標の8、これらの違いがわかりづらいということでした。目標5、6と7と8はセットに分けられているわけですね。特に目標の7と8は、国際競争力を高めるという考え方方が二つで、目標の前半の5と6は魅力を高めるということです。当然、魅力を高め、高めた結果として競争力が上がるということで、内容的にはかなりオーバーラップすることになりますね。これについては、最後の枠組みのところで引き続きということでよろしいでしょうか。

では、今の目標5の中に入っている要素として、もう少しこういうものを追加したほうがいいのではないかといったお話はいかがでしょう。

例えば、さまざまな人が引きつけられてくるとすれば、新幹線効果も中に入れる必要があるかと思いますし、今、天神と博多駅という二つの2大商業地域を抱えているということも、人が広域的に引きつけられる要素として、もう少し中に盛り込んだほうがいいのかなと思います。

それから、セントラルパークという表現があります。「めざす姿」の丸の2番のセントラルパークという言い方、これが一般的なのかどうか。今、セントラルパーク構想は福岡だけではなくいろいろな都市で考えられているようですし、実際まちづくりのほうでは、このセントラルパークという言葉がタームとして使われているのかもしれませんけれども、あまりセントラルパークというのはなじまないように思います。これはいかがでしょうか。

○事務局（藤本） 事務局から補足でご説明させていただきます。1回目でお配りした施

策検討用参考資料の資料10をお願いします。基本計画の案とセットでごらんいただきたいということでお示ししたものです。こちらの25ページをごらんいただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

こちらは、それぞれの施策の内容について補足させていただいているもので、施策5-2のところがセントラルパークの説明です。都心に近い貴重な緑地空間として親しまれている大濠公園、舞鶴公園一帯をセントラルパークにしていこうという構想がございまして、それをセントラルパークと表現させていただいている。ご指摘のとおり、まだ一般的な用語でなく、目標の「めざす姿」の中で説明なしで書いているところについては読めないところがあると思いますので、検討したいと思います。

○星野部会長 そのほか目標5についていかがでしょうか。お願いいいたします。

○委員 37ページ、現状と課題の⑤についてです。スポーツの関係で、福岡がいろいろなイベントを開催しているということは十分認識していますし、さまざまな人が引きつけられているという観点からしますと、例えば障がい者の大会というのも含めて、いろいろな幅広いイベントが考えられるのではないかと思います。「さまざまな人が」というところを考えましたら、そういう観点があったほうがいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局（藤本） そのようなことも十分大切だと思いますので、入れていくようにしたいと思います。

○星野部会長 そうですね、プロ、アマを問わずに、国内のトップリーグのチームが集まっている福岡なので、そういう書き方がいいかもしれませんね。ありがとうございます。お願いいいたします。

○委員 目標の設定についての意見ですけれども、ここの目標5では、魅力に人が引きつけられているということを言っているので、目標の設定としては、具体的に例えばアジアとか外国人から見た福岡の知名度とか印象を調査した結果があったほうがいいのではないかと思います。こういう目標は、成果指標型で客観的にデータがとれるものがほんとうはいいんでしょうかけれども、この目標とか目指す姿の内容からすると、そういった調査結果のようなものがあったほうがいいと思います。

○星野部会長 前回ご質問があって、外部から見た福岡の評価というのを資料4として配

っていただいている。どうぞ。

○事務局（藤本） 今ご指摘の件はそのとおりでございまして、こちらの内部でも指標の検討は大分したんですが、ある程度継続的にモニタリングしていく数字として、既存のもののがありません。また、このためにアンケート調査をやって、それでモニタリングしようということで今のところ想定しているんですが、外の方に対するアンケートについては難しくて、今の段階では落ちているところです。そのあたり、外の方からのご意見のとり方とかも、もしご指導いただければ、何らかの形で考えてみたいと思います。

○星野部会長 よろしいですか。どうぞ。

○委員 アジアに向けた福岡ということをイメージしたときに、知名度が低いということを皆さんを感じられていると思うので、そういったところをきちんとモニタリングしていくことで、それを高めていくという取り組みにつなげていただきたいという思いがあります。ぜひお願ひしたいと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。前回も指摘をいただきましたけれども、外からどういうふうに見られているのかということを意識しながら考えていくことが必要ですので、今の青木委員のご意見を踏まえ、どういう形で指標化するか考えていただきたいと思います。ありがとうございます。

安浦会長、どうぞ。

○安浦会長 この目標5は、前回、員が言われた、住みたいまち、行ってみたいまち、それから、働いてみたいまちという範疇から言うと、行ってみたいまち、外にいる人が来たいというポイントだと思います。その中で一つは、先ほど部会長もおっしゃいましたけれども、それを受け入れるためのインフラであり道具についての目標が薄いのではないか。要するに空港とか鉄道のことはほとんど書かれていません。港は1に少し書かれていますけれども、港と空港と鉄道と道路、この四つのアクセス手段に対してどう投資をしていくのか、どう整備していくのかが見えにくいというのが1点です。

それから、2番目に、行ってみたいと思うモチベーションについては、MICE、イベントがあって、観光、買い物はあまり表には書かれていません。福岡に買い物に来る人が、九州一円あるいは韓国からは圧倒的に多いわけで、そういう意味での買い物というファクターと、それからもう一つ、就学ですね。勉強に来るというのが若い人を引きつける非常に重要なところで、6-5にそういう就学的なニュアンスが書かれて

います。これは来てしまった人をどう育てるかということで、福岡で学びたいと思わせるための考え方があなたの意見がもう少し表に出てもいいのではないかと思います。

○事務局（藤本） 幾つか事務局から補足させていただきます。

今ご指摘の件で、まず、インフラはどうしても観光以外のビジネス系のインフラなどと重なっておりまして、それぞれどこに置こうかというのがあります。48ページの目標8のほうの8-4のところに、ビジネス系の機能を中心にということで、人流のゲートウェイについて、ここでまとめて書かせていただいております。目標にはいろいろかかわってくるんですけれども、何回も上げるとわかりにくいということで、交通インフラについてはここに書かせていただいている。

それと、今の38ページの施策で、5-3の「まちの情報の入手しやすさと回遊性の向上」というのは、来られた方が、まちのどこにどういうものがあるかが容易にわかり、実際に回遊しやすいという、まちの中の交通の回遊性についてここで書かせていただいている。

買い物の機能につきましては、目標8-1が都心部の機能を強化しましょうというところで、都心部の機能の一つとして、買い物が楽しいということを記載しています。施策検討用資料の41ページが施策8-1の解説にもまだ十分きちんと入っていないところもありますが、こういったところに入っていくのかなと思います。

それと、学びについては、おっしゃるとおり、来た人が学ぶということ、育てるということが中心になっているので、ご指摘のような部分についても少し考えてみたいと思います。

○星野部会長 クルーズ船のことが書かれていて、クルーズ船は派手なのでクローズアップされがちですけれども、実は利用者数も、経済効果からしても、韓国からの高速船とフェリーのほうが福岡にとってはるかにインパクトが大きいと思いますので、クルーズ船以前に、福岡は日本で唯一日帰りで船旅ができる場所で、これだけの韓国人の方が来られるということを、ぜひ押さえていただきたいと思います。

それでは、先ほどご意見いただきましたけれども、さまざまな人が引きつけられてくる福岡であるために、アクセスの方法や中の魅力だとかの中身をもう少し精査していくだくということでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、次、目標6に入らせていただきます。

これはなかなか難しいところだなと思ったんですけども、「創造的な活動が活発で

新しい価値を生み出している」という内容で、実際、非常にクリエイティブな産業がここで生まれ、ここからスタートするまちでありたいというふうに書かれているわけです。しかし、前回、委員からご指摘いただいたように、必ずしもここに、福岡に今、そういった集積があるわけではないという現状からすると、なかなかこれから先、ここまで持っていくというのは難しい。だからこそ、どういった具体的な取り組みをしていくべきかということになりますが、あまりされていないように思います。

委員、何かこの部分で追加すべきものがありますか。

○委員 6-3に「個人の才能が成長を生む創造産業の振興」と書いてあるんですが、私たちのようなゲームをつくっているような産業だと、こちらに書いてあるように、一人の天才の考えるものに対して何百人がかりでゲームをつくっていくという仕事のやり方をしています。こちらに書いてある内容だと福岡に既にいらっしゃるという感じにとらえているんですが、今、福岡にある事業所、あとクリエーターは、福岡にもともといた方ではなくて、全国的に知名度がある方のほとんどが、よその地区から、九州外からいらっしゃっている方で、そういう方にわざわざ福岡に来ていただくにはどうしたらいいのかという視点で施策を考えていただければありがたいと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。

ここにクリエイティブな産業を集積させるためには、もっと何かの枠組みとしてのつくり込みが必要でしょうし、さらに、ここから何かがスタートするというスタートアップシティとなるためには、まだまだ、具体的な施策が必要というお話をいただきました。まさにここからスタートアップされた委員、何かコメントございますか。

○委員 私は、もともとは奈良県の生まれで、大学から福岡に来て、それから福岡で起業して、今に至ります。福岡に来ての印象として一つあるのが、表に出たりだとか、集まつたときに、意外と地元の人じゃない人が多いですよね。もともと福岡の地元の人じゃないという人が意外と多い。この福岡に関しては、出身地だとかそういうのはあまり気にしないところがあるのかなと思うんです。

具体的に施策にどう落とし込むのかというのは難しいところがあると思うんですけれども、少なくとも私自身は、農業というテーマで言えば九州ということと、今後、アジアということで考えれば九州で、福岡は非常におもしろいなと思っていました。地方だとか一次産業というテーマ、あとアジアに目を向いている人たちにしたら、いい空間というか、いい都市なのではないかと思います。もちろんクリエーター関係にしても、今後、仕事のやりとりだとかマーケットということでアジアとの関係が当然出てくるでし

ようから、そこを打ち出していくのは確かにおもしろいかなと思います。

○星野部会長 アジアというと、具体的にアクセスがここに集中するというのが重要なのかと思いますけれども、委員、ビジネスを展開する上で福岡の優位性だとか基盤についてはどういうふうにとらえていらっしゃいますか。

○委員 私は主に中国なんですけれども、今、東京あたりの大きい大手企業は、中国の大学において大学2年生ぐらいから優秀な人材を確保していて、そういう人材に投資をして、卒業してから日本の企業に引っ張ってくるということをほぼ5、6年前からやっています。いろいろな企業の話を聞いているんですけども、福岡市内あたりの企業は非常にまだ少ないようですね。おそらく外国からそういう人材を引っ張ってくるときに、何かクリアできない部分があると思います。例えば、ビザとか、そういう人を引っ張ってくるときにどのような手続をしていいかとか、それは多分大手の企業でないとわからないと思いますので、そういう環境をつくることを考えたらどうかなと思います。

○星野部会長 今の福岡は、アジアのほかの地域から人を集めようの環境がある程度できていると感じられますか。

○委員 あまり感じられません。今は目標の6についてですけれども、目標の8のグローバル人材のほうでは、育成と活躍の場づくりと書いてあります。福岡市内には今、就労目的の在留資格の方が2,696人ぐらいしかいないので、比率は非常に低いです。福岡での観光クルーズ船とかスポーツ誘致とかを見ると、アジアから一時的な誘致をしているように感じていますし、福岡に来ている外国人が母国にいる人を呼ぶくなるような環境があればいいなと思っています。

○星野部会長 なかなか今、福岡にそういう土壤があるとは言えないと思います。ここの中には、全国の都市に比べたら、ここで起業する率はやや福岡は高いように書いてあるんですけども、後藤委員、もしよかつたら、例えば福岡からスタートするという人を育てるという意味で、この持つプロコン（pros and cons：賛否両論）、さまざまな利点だとかマイナスについて、少しまとめて話していただけますか。

○委員 福岡地域戦略推進協議会で話しているのは、基本的に起業とか創業支援については、マーケットを提供することに尽きるということです。言い方は悪いですけれども、日本の地方自治体ができる規制緩和とか補助、助成には限界があります。対海外比で見た

ときには、日本全体が根本的に競争力が低くて、国内第何位という競争をしたいだけならそれでいいんでしょうけれども、国際競争力という観点でいたら、国の法人税率をはじめ、根本的に勝負にならない。その中で、あえて福岡でできることは何だろうという議論を昨年1年間いろいろしてきた中で、一言で言うと、実験の場をまち全体で提供して、新たな商品開発、サービス開発をする手伝いをするということが一番わかりやすいのではないかという結論でした。確かにこの資料を見てもそのとおりなんですかけれども、国内第何位ということを我々は議論したいのかというところが一番気になります、目標の高さをどの辺に設定するのか。数値化には非常に厳しさがあるとはいえ、目標自体は高目に設定をするほうがいいのかなというふうに思います。

○星野部会長 もし実験場としての福岡というふうにとらえるということですが、人口と地域性という観点で、そうなり得るんですかね。どういうふうに考えられますか。つまり市場を提供するということで、市場としての福岡の魅力というのがスタートアップに適当だとすれば、それが具体的にどういうふうにつながってくるんでしょう。

○委員 市で100、都市圏では240万という十分な規模があって、かつ『MONOCLE』ではありませんが、世界で最も洗練された消費者がいるということは、圧倒的な優位性だと思っています。あと戦略の問題になると、やるかやらないかという腹決めの問題で、できるできないという分析は根本的にナンセンスな気が若干するんですけども、今回は総合計画の中での議論ですので、できるできないというよりも、目標として掲げるか掲げないかということについて審議会としてどうするかという議論をすればいいのかなと思います。

○星野部会長 そのほか今の一連のことについてのご意見でも構わないですし、それ以外でも、目標6、創造的活動が活発で新しい価値を生み出す福岡について、何かご意見ございませんか。

○安浦会長 幾つかあります。

まず、6-1につきまして今、委員からありましたけれども、今の動きとして、孫正義さんの弟さんの孫泰蔵さんが、福岡を拠点に創業のエコシステムをつくると宣言してくださいます。

ソフトウェア系の企業だと500万ぐらいあるとスタートできます。それで立ち上げて半年ぐらいでできたもののうち、ほんとうに物になりそうなものに、投資家から募った第1弾のシーズマネーでお金をつける。そのときは1億から3億ぐらいを投資するかど

うかという話になるわけですけれども、お金をとる人ととれない人が出てくる。

お金をとった人に何が起こるかというと、人材がいない。お金をとれなかった人はお金がないけど人材は余ってしまう。それを結びつける。それがシリコンバレーの仕組みなんだというのが彼の一つの考え方で、金はあるけど人がいない、人はいるけど金がない、そういう人たちを結びつけるエコシステムを日本の中でつくりたいということを言わせていて、今動き出しています。県もベンチャーマーケットとかやってていますので、例えば、そういうものを市が一緒になって仕掛けていくという仕組みを6-1の中にもう少し入れてもいいのではないかと思います。

それから、6-2のところで、指標に博物館とか美術館とか書かれていますけれども、ここはぜひ都市圏として考える必要があると思います。九州国博や、今度、糸島で国宝級の刀剣が出てきましたけれども、あれはひょっとしたら糸島で飾られるかもしれないわけで、観光の問題は都市圏全体での魅力として広く考えておく必要があるのではないかと思います。九州国博は国立博物館にものすごいインパクトを与えました。京都、奈良を抑えて東京に次ぐ2位の入場者数で、京都や奈良が慌ててやり方を変えてきたという実績があって、あそこは福岡が持っている魅力なので、文章とか資料の中に加えていただければと思います。

最後になりますが、6-5のところで、具体的に大学、それから非常に数の多い専門学校をいかに福岡の魅力にするかという、そこが非常に重要です。今から特に私立大学は苦しい時代に入って、つぶれるところが全国で数多く出てくるわけです。多分、10年以内に3割か4割はなくなると思います。そういう中で、福岡にある大学あるいは専門学校はつぶれるのではなくて逆に大きくなる、あるいは連合して強くなる方向にうまく動かせるような施策が盛り込まれると、非常に強いメッセージになって、学校をやっておられる方々も、あるいは学生たちも、「勉強するなら福岡に行こう」と思うのではないかと考えます。

○星野部会長 ありがとうございました。最も住みやすい都市として長く世界のナンバーワンの座にあったバンクーバーは、もともと鉱物資源や森林資源が豊富だったところですけれども、今はその重厚長大から離れて、教育産業、ソフトウェアあるいはクリエイティブ産業に力を入れて、非常に活発に動いているわけです。研究拠点としての大学だけではなくて、今、安浦会長の言われたような産業としての教育というのも、人材輩出かつ、多様な人材をここにつくり出すという意味で大きな魅力になるでしょうね。

前回、2022年にこういったまちになりたいといったときに、それに向かう障害って何なんだろう、その障害をどう除去していくのか、そして今あるものをどう生かしていくのか、そして3番目に一歩出るための競争優位性を持つという、そういった三つの切り

口で見ていったらどうかということをお話ししましたけれども、どうしても「創造的な活動が活発で、新しい価値を生んでいる」という具体的な話がなかったんですね。今皆さんから出た、少し具体的な枠組み、こんな動きというものを入れていただいたら、この中身がクリエイティブシティに向かう基盤となると思うんですね。

特に目標6は、具体的な方策というものを入れていただかないと絵にかいたものになってしまふので、ぜひそうしていただければと思います。そういった観点からもう少し、こういった創造的な、それをはぐくむこんな動きもあるとか、こんなのを入れたらどうかというご意見はいかがでしょうか。

○委員 私の経験からですけれども、私には起業家に対していろいろ支援するのが果たして正しいのかどうかという考え方もあって、手厚くやることで育つかというとそうでもないかなと思うんです。私がよかったですなと思うのは2点あって、一つはいわゆるインキュベーション施設ですよね。当然、スタートアップの固定費は少ないにこしたことはないので、インキュベーション施設というのは福岡市内にわりといろいろある。

私の場合は「ibb fukuokaビル」という警固神社の隣の民間のインキュベーション施設について、3年間、インキュベーション施設という料金形態で、あの天神のど真ん中にいさせてもらったというのは、非常によかったなと思っています。ああいった施設の充実というのは、スタートアップシティづくりという観点からすると、非常にいいだろうと思います。ただ、それも民間がやるのか行政がやるのかで言うと、民間が本気でそこを支援して、場所も提供するけれども、多少口も出すというインキュベーションが増えていったらしいかなと思います。

ベンチャー支援ということでおよかたなと思う2点目は、私は福岡市さんから100万円賞金をいただきましたけれども、ああいったベンチャービジネスプランコンテストとかいったものは自分たちの実力でとりにいくもので、そういったものが幾つかあって表彰されたりすると、パブリシティー効果もあります。そんなものが、分野別だとか伸ばしたい産業別とかでもうあつたりしたらしいかなと思います。そこで受賞した人たち同士のネットワークができたり、受賞した人たちに対する先輩企業からの応援みたいなものも結構あると思うので、そういった何々賞みたいなものは意外とばかにならないと私は思っています。

○星野部会長 ありがとうございます。

具体的な話がそろそろ出てきました。インキュベーション施設があって、コンテストがあって、それを実際に実験する場としての福岡がある。それから、先ほどご紹介いただきましたけれども、今後、創業のエコシステムが検討されている。そういったものを

具体的にここに述べていただきと、「ああ、クリエイティブシティとして何かここで生まれ出すような、スタートアップのサポートもされているんだ」ということがわかってきて、それをどう伸ばしていくかにつながってくると思うんですね。そうするとこのページはもう少し充実してくるのかなと心強く思いました。

ほかに、この目標6でいかがでしょうか。委員、お願ひします。

○委員 施策6に入れていただきたいことです。私たちはコンテンツビジネスなんですけれども、一つゲームや作品をつくろうと思ったりすると、ほんとうにたくさんのデータが必要になるんです。例えば音を録ったりするには、声優さんがいる東京に行かなくてはいけない。スタジオも東京にあるから東京に行かないといけない。シナリオライターさんも東京にいる。大阪のほうには映像の編集会社があるということで、福岡を拠点にしながらも、たくさんの会社さんに発注をしようとすると、どうしてもほかの地方に行かないといけない。でも最近になって、例えばサウンドの会社さんが東京から移転されたりとかしてきて、九州から出なくてよくなつた、福岡市内で賄えるということで、非常に便利になってきたんですね。

ですので、10年後にもっとクリエイティブだとかソフトウェアの産業を成長させようと思うのであれば、九州、福岡市内にそういったクリエイティブな産業、こちらの6-3、32ページに書いてあるような、動画・音声・静止画・テキスト関連の産業、企業を誘致していただきたい。もちろん相互で成長していくような形になりますので、いいスパイラルとしてまちの中で循環できる集積地ができるような施策をぜひ盛り込んでいただけたらなと思います。

これは私が起業しての感想になるんですけども、12年ほど前に起業したのは、福岡市ではなくて実は佐世保なんですね。1年ほど佐世保で会社をやっていて福岡に来た理由は、学校が多いから、新しい若い力が欲しいから、若者たちが集うまちだからというのも一つにはあったんですけども、佐世保にいたときに、百道のインキュベーション施設の福岡市の創業応援団の方がお見えになられて、「福岡市にいらっしゃいませんか。百道に来てくださいませんか」というお話を聞いたことが大きいんですね。結局入居はしなかったんですけども、わざわざ佐世保までお越しいただいたことで、「ああ、安心して行けるな」と思って、安心感を得て行くことができました。これはほんとうにありがとうございましたので、ぜひ続けていただければと思います。

○星野部会長 具体的なお話をありがとうございます。

専門学校を見ていると、かなりクリエイティブ産業に向けた教育をされているよう思うんですけども、会社としては福岡にまだそういった受け皿はないんですか。先ほ

ど、例えば声優の人とかオーディオ、ビジュアル、さまざまなお話をされましたけれども、会社としては福岡にあまりないんですか。

○委員 ありはするんですけれども、非常に少ない。東京に集中してしまっているというのが現状ですね。私たちもG F F（九州・福岡のゲームソフト制作会社などによる団体）という団体をつくらせていただいて企業の誘致などの活動をしているんですけれども、東京に一極集中していて、10人の声優さんにお仕事を頼もうと思って、2人福岡でアサインできても残りの8人が東京にいらっしゃるとなると、2人を連れていったほうが早いみたいなことになっているのが現状です。どうしても東京のほうに行っているというところです。

○星野部会長 ありがとうございます。

○安浦会長 今の委員のお話は非常に重要なポイントで、昨年行ったバンクーバーでは映画産業を誘致していて、今ハリウッド映画の3割ぐらいはバンクーバーでつくられているということらしいです。

一つの映画をつくるのには、いろいろな職種が必要になってきます。最近は当然、特殊効果とかC Gとかも必要になりますから、そういうコンピューター関係のエンジニアから何から、非常に幅広い業種のメンバーが必要になるということで、どういう種類の職種の人がどれくらい必要かというのを全部洗い出して、それぞれの職種で、「ハリウッドでつくるよりも、この場合はコストがこれだけ安い」という積み上げをして、1本の同じ品質の映画をつくるのに、「バンクーバーでつくったほうがトータルでこれだけ安いよ」という、そんなことをやるプロモーターをハリウッドから引き抜いて、その人に全体の絵をかかせているんですね。産業構造としてどういう職種をつくるか。多分彼らはものすごい高給で引き抜かれたんだと思うんですけれども、後藤委員も一緒に会いましたよね。

そういうことまでやらないと、一つの産業を集めてくるというのはなかなか難しくて、素人だと三つか四つの関連産業は思い浮かぶんですけども、実は100ぐらいの関連産業が必要になるわけです。どうしても福岡に持つてこられないものも幾つかはあると思いますけれども、基幹の部分をちゃんと持つてこられるビジネスプロモーターというかディレクターというか、そういう人をちゃんと置くというぐらいの施策が必要になるのではないかということをバンクーバーで非常に刺激的に教えてもらいました。

○星野部会長 ありがとうございます。

次の目標 7 の「産業が活発でたくさんの雇用が生まれている」というのを見ると、まさにその集積をつくるためにどう連携していくかということが述べられていますので、もし、6 でほかに特にご発言がなければ、7 に向かいたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

7 は「産業が活発でたくさんの雇用が生まれている」。先ほどの 6 とかぶる部分も多いですけれども、ここの集積を利用して、福岡都市圏の開業率は全国トップレベルになっているという事実があります。これをどうやってもっと伸ばしていくかということが、この 7 で述べられているわけです。今、具体的な方法として安浦会長から、プロモーター機能の集積をつくることが必要だというご指摘をいただきましたけれども、ほかにこの目標 7 でご質問、ご意見いかがでしょうか。

お願いします。

○池内副部会長 池内です。成長戦略ということで今回、観光、コンテンツ、それからアジア、国際的なものとかいろいろ挙がっているわけですが、少子高齢化の中、生活者の視点のビジネスにはもう少し力を入れるべきではないかと思います。福祉の部分もありますけれども、ビジネスとして成り立つものはたくさんあるということが一つです。

それと、女性の起業家を出すということで言うと、もちろんコンテンツを女性の方がするというのも多いんですが、実は女性が事業をする場合は、生活者の視点でのニッチなビジネスが大変多いんですね。そういう意味で、女性の起業家をつくるという意味では、生活者の視点におけるビジネスの創出とかいった部分も少子高齢化においては必要なのではないかと思います。医療関係もないですよね。あるのは農業と観光とコンテンツとアジアですよね。だから、そのところも入れていただけたらありがたいなと思います。

○星野部会長 池内副部会長自身がここで介護ビジネスを創業されたわけですけれども、そういう意味では、こういったものがここから出ていく土壌というのはどういうふうに考えられていますか。

○池内副部会長 私はビジネスとして保育を、九州、沖縄、そして東京でやっております。実は九州では規制の壁がすごく高くて、保育所事業はなかなか事業的に難しいところがございまして、九州で私どもがやらせていただいているのは、実は病院の中の保育所で、病院様が福利厚生でお金を払って私どもに委託をするというビジネスが大半です。志免町のほうでは認可保育所をさせていただいておりますが、東京のほうでは認証保育所といって、民間の参入に大変積極的です。そういう意味では、同じ保育のビジネスをし

ながら、地域によって違う支援をやらせていただいているというところがありまして、保育ビジネスをしようと思ったら、現状では東京のほうがやりやすいというのが事実だと思います。

○星野部会長 なかなか厳しい現状もあるようですね。

今、池内副部会長から、女性がここで新たな産業を生むというお話をいただきました。例えば、ソーシャルビジネス言葉が日本で一般的になってまだ数年ですが、福岡はソーシャルビジネスシティという宣言もされていますので、ニッチとして今までなかったものを中心に新たなものをつくり上げていく際には、こういったものを含めていいのではないかと感じます。

○池内副部会長 そうですね。

○星野部会長 ほかにいかがでしょうか。お願いします。

○委員 今の一連の議論ってすごく大事な話をしていると思っていて、6と7連動しているんですけども、F D C（福岡地域戦略推進協議会）の去年の議論をなぞっているところがあります。創造的という言葉だけでカバーし切れない産業がすごくあって、委員のところのゲームが象徴的なので、そういうイメージで皆さん議論しますけれども、実は大半の雇用というのは、おっしゃるとおり基幹産業である福祉や医療、あるいは小売業であるわけで、そっちの革新という話がない限り、そもそも雇用基盤の維持すら難しいというのが実情だと思っています。

つまり、6のほうでキーワードとして抜けていたのが「革新」という言葉で、そこをセットで、産業分野をあまり限定し過ぎずに増やしていくということを入れた上で、7のほうで先ほど安浦委員からプロモーター機能というお話がありましたけれども、ここは本当に歯を食いしばってやらないと、単に企業誘致とかいうぐらいでは産業はそう簡単には生まれないと思います。さっき委員は集積地という言葉をおっしゃって、安浦さんはエコシステムという言葉を使われたんですけども、その核になる、政令市ならではのシンクタンク・学習・情報集積機能、こういったものが実は非常に重要なのではないかと思います。そういう部分がすっぽり抜けているように見えます。キーワードは「学習」かなと私は思っていますけれども、その目線を6か7に入れただけませんか。地域全体で産業のあり方等を常に考え続け、行動し続けているという状態をつくるということです。

○星野部会長 ありがとうございます。創造的活動、クリエイティビティーだけではなくてということですね。先ほど「革新」と言わされたのは、「革新性」の革新ですか。

○委員 イノベーションです。

○星野部会長 なるほど。まさに事業性、革新性、社会性を持ったものがソーシャルビジネスと言われていて、クリエイティブと言うと、どうしてもコンテンツ産業、先ほどの映画、そういったところに向かいがちですけれども、「革新性を持った」、この視点をぜひ入れていただきたいと思います。

目標7の目指す姿に、福岡都市圏の開業率は全国トップレベルになっていると書かれています。藤本課長、この数字を見ると確かに日本全国の平均よりも高いみたいですが、具体的にどういったところ内容なのか少し説明いただいてもいいですか。スタートアップセミナーを目指す、開業率が高いということなんですか。これについて補足をお願いできますか。

○事務局（藤本） 開業の話は、目標6-1のスタートアップのところと7-3の起業・創業が少しかぶっています。もともと7のところはある意味すべての産業ということなので、ラーメン屋さん、パン屋さんを創業するということも含めた起業・創業の支援を充実していくというのが7-3です。その目指す姿のところの福岡都市圏の開業率は全国トップレベルになっているという趣旨としては、福岡都市圏全体の産業の基盤、いわゆるベーシックなところですね。8のほうがアジア、国際、6のほうがクリエイティブな考え方というところなので、7については福岡市の産業全体が活発である状態ということです。福岡市ではなく福岡都市圏で経済のまとまりになっているということから、福岡都市圏という経済的な地域において、1つ目は成長分野が活発である、2つ目は新しく業が起きるところが活発である、あとは新しい分野にどんどん地場の中小企業さんが参画しているという、ベーシックな姿をここで述べているつもりです。

○星野部会長 とすると、むしろ目標7では基盤を具体的に述べていって、目標6では、例えば革新性、創造性を持った産業についてもう少しフォーカスを当てるという分け方ですね。

○事務局（藤本） はい。

○星野部会長 ほかに7についていかがですか。安浦会長。

○安浦会長 3点ございます。

1点目は、7-1の書き方で、これは福岡市がＩＳＩＴをお持ちだからかもしれません、ものすごく狭く書かれているのではないかと思います。この地域の先端科学技術としての強みは、ここに書かれているＩＴ、有機ＥＬだけではなくて、水素エネルギー、カーボンニュートラルのエネルギー技術、ロボット、それから環境技術、広く見れば幾つかあるわけです。これは県がやっているからとか、これは北九州市がやっているからなんて言って外すのではなくて、少しでもかかわっているものは全部取り込んで書かれたらいいと思うんですね。

こういうデータも、福岡地域の研究機関及び大学がとっている国のプロジェクトが幾つあるかという目線で見ないと、ＩＳＩＴがかかわっているプロジェクトが幾つかなんて、そういう形で世界と比べたら負けるに決まっているわけですから、そのところの書きぶりを変えていただきたいと思います。

それから2番目は、難しい問題かもしれませんけれども、7-6の就労支援は、最初にあった財務のところの生活保護の割合が圧倒的に多いという問題ともかかわってくるわけです。ハローワークの業務を国がやる必要はなくて、働く能力があるのに生活保護を受けているような人を知っているのは市なわけですから、これこそ地方分権でそういう人たちのハローワークの仕事については、市が前面に立って全部面倒を見るというのが一番いいと思うんですね。そういうふうな話に持っていくように、地方分権を実現し、この辺は市の業務として全部取り込むというぐらいに書き込むことができるかどうか。厳しいかもしれません、方向性としてはそうあるべきだと思います。

3番目は、先ほどの池内副部会長のお話とも通じますが、医療や福祉、介護、そういういろいろなものが産業として回っていて、日本的にも、世界的に見ても、市民から見れば非常に高いレベルの福祉あるいは医療サービスが受けられる。しかし、それを単に市のサービスとしてだけとらえるのではなくて、サービス産業として回っているというモデルをつくることを目指すことがすごく重要なと思うんですね。ここにも多分、地方分権の話が当然入ってくると思うんですけども、それも含めて、どういうふうに分権に持っていくかというメッセージをある程度ここに入れていいと思うんです。

委員もおっしゃったように、道州制というのは避けて通れないわけですから、この辺まで市はやりたいんだというメッセージを出して、それができなかつたら、権限をくれなかつた国のせいだと言えばいいわけです。やりたいことをきちんと夢を持って書かないと、先ほどの財政のバランスだってうまくとれないと思うんですね。そういう考え方を少し入れていただければと思います。

○星野部会長 2022年の福岡の姿を描くにはもう少し踏み込んで具体的なことを書いても

いいのではないかというご提案がありました。

お願ひします。

○事務局（光山） 安浦委員のご指摘はごもっともです。確かに10年後の福岡のありようというものを計画の中に落とし込んでいくわけですから、現行の規制、制度の中だけでは物を考えていたら、雇用の問題やビジネスの問題はなかなか打破できないだろうと思います。社会保障系というのは、地方自治体としても国の制度にがちがちにされているところがありますが、未来に向けての計画ですので、できる限り前向きに記載できるように検討していきたいと考えています。

○星野部会長 よろしいですか。どうぞ、委員。

○委員 目標7の現状と課題の2番なんですけれども、福岡市は主な産業が卸売業と小売業で、歴史を見ても博多商人のまちです。例えばの発想なんですけれども、中国に義烏（イーワー）という、中国の中で一番規模が大きい、有名な小売市場があります。全国的に有名になりました、全国の商売の人たちが卸しに行きます。博多もそういう商人の町だし、小売業の規模が大きい売り場ができたら、宣伝になるのではないかと思いますね。

○星野部会長 今言われた義烏（イーワー）というのは。

○委員 中国語で義烏（イーワー）なんですけれども、中国国内で一番規模が大きな小売市場です。今、世界中から卸しに来ます。博多も博多商人で有名だし、博多にもそういうところがありましたら全国に宣伝になるのではないかと思います。それは私の発想です。

○星野部会長 ありがとうございます。こういうものを機能として持っていたら魅力が高まるのではないかというお話をいただきました。

最後の目標8は一番難しいところだと思います。アジアのリーダー都市を目指すということで、これは何かというと、ほかのアジアの都市から模倣されるような、見習われるようなモデルをつくり上げるということです。今ご提案いただいたことも含めて、アジアのトップを走るということではなくて、福岡の中にあるものがいろいろなところから学習されるような代表になりたいということを目指しているのが目標8だと思います。この目標8は、国際競争力を有してアジアのモデル都市となっているというふうに挙げ

ているんですけども、これについていかがでしょうか。どなたでも結構です。

委員、どうぞお願ひします。

○委員 私が日本に来て20年で、住めば住むほど福岡のよさを感じております。今、海外から来ている観光客やビジネス関係者が増えているんですけども、一時的に来るだけで移動してしまうので、ほんとうの福岡のよさを感じていないと思います。

そこで、福岡がアジアの玄関口としてグローバルな都市になるとしたら、福岡に来ている外国人に対してずっと日本にいたいと思える環境をつくったらしいと思います。現実を見ていると、日本に来た留学生たちのうち、たくさん的人が残りたいと思っているんですが、卒業してからは8割ぐらい国の方に帰ってしまう。なぜ帰ってしまうかというと、まずワーキングビザの申請ができないんですね。福岡でも、例えば外国とビジネスのやりとりがある企業であればビザの申請ができるけれども、国内の企業はなかなか申請できないんです。優秀な人材がいても、企業が採用できないという現状があります。

福岡に来ている留学生が卒業しても、例えば3年間ぐらいの短期間でも社会人として福岡にいられるような環境があれば、おそらく東南アジアの国の人たちにすごく宣伝になると思いますし、留学だけではなくて社会人としても福岡にいられるようになるという、ほかのところと違う特徴があればいいなと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。特区でそういった話が出てきましたけれども、福岡がモデルとなるためには、福岡にある外国人・日本人を含む人流をもっと生かしていく仕組みというのがもう少し具体的な施策として乗ってくる必要があると思います。

ほかにいかがでしょう。委員、お願ひいたします。

○委員 今の委員のご意見に関して1点と、そのほか1点ございます。

まず、委員のコメントに対してですけれども、今、九州には留学生が多く、全国約13万人のうち約1万7,000人ぐらいの留学生がいます。オール九州の取り組みといたしまして、その優秀な留学生をできるだけ九州の企業に残らせようという目的で、昨年11月に九州グローバル産業人材協議会を発足させ、インターンシップ等の事業を実施しております。特に九州の中小企業と留学生のマッチングを行って、留学生をなるべく残す方向で取り組んでいるところです。そういう留学生の活用をもう少し、施策8-5のところで研究いただければありがたいと思います。

それともう一点が、現状と課題の4、これは施策8-4に関係してきますけれども、福岡市等が申請されたグリーンアジア国際戦略総合特区が承認されて、その中でROR

○船の導入によるグリーン高速物流網の整備、それに伴ったアジアビジネス拠点化づくりをしようという取り組みが今されているところでありますので、それを施策8-4にもう少し入れ込んでいただくと非常によろしいのではないかなと思います。

○星野部会長 今、村上委員から最初のほうでお話しいただいた件については、九州経済産業局でインターンシップのプログラムをされていますよね。これは実際どのぐらいの数を紹介されているんでしょうか。

○委員 昨年度は46社の企業に47人の留学生の申し込みがありまして、最終的に15社で28人のインターンシップ実施、そのうち内定者が今年3人出ました。昨年度はあくまでパイロット的に実施しました。今年度は申し込み企業が約85社、留学生がほぼ同じぐらいの人数で、今マッチングをしているところです。昨年度に比べますと倍以上に伸びておりますので、内定者も昨年度以上になるのではないかと期待しているところです。

○星野部会長 ありがとうございます。

委員からはグリーン物流のお話もいただきましたけれども、福岡が何かのモデルとなり得るとすれば、環境と産業の共生ということは明らかに一つの目玉だと思います。今のグリーン物流で言うと、RORO船が来て、それがそのままトラックではなくて鉄道貨物に積まれて日本全国に行くという、最近のモーダルシフトのグリーン物流というのは福岡が一つのモデルになっておりまし、福岡のコンテナポートが排ガスを出さない、電気でクレーンが動くだとか、これもまた日本でも先駆的な動きをしています。このような環境と自然と産業の共生の具体的なケースが、アジアの各都市に見せられるようなモデルだと思います。委員、ご指摘いただきましてありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

○安浦会長 8-1とか8-2のところで、残念ながら現在の福岡で一番不足しているのは、プロジェクトを考えても、例えば5,000億投資してくれる人がいるかというところだと思うんです。そこに対して外資の導入は考えられないでしょうか。これはいろいろ賛否あるだろうし、どこから持ってくるかという問題もあるとは思いますけれども、例えばシンガポールあたりだと、今の非常に安定した日本に対してなら5,000億ぐらい投資してくれるかもしれません。10年後だったらどうなるかわからない。

そういう投資をいかに呼び込むかという戦略をつくる人がちゃんといて、いろいろ政治的なリスク要因も考慮した上で、どこからどれくらいの投資を呼び込むか戦略的に決めていくことができる部署というか、シンクタンクというか、そういういったものが必要で

はないかと思います。そうしないと8-1とか8-2は結局は絵にかいたもちで、小規模開発だけで終わってしまうような気がいたします。

それから、8-3で空港の話が出ておりますが、福岡空港は移さないと決めたので、あそこのキャパはそう増えない。まあ、滑走路を2本にすれば少しは増えるのかもしれませんけれども、そう大規模には増えないわけですね。そうなったら、今後20年ぐらい先を見ると、佐賀と北九州とをうまく結んで、佐賀、九州、福岡の空港をうまく使い分けていく。特にアジアとのネットワークにおいて、旅客は一番便利なところがいいだろうから福岡にするけれども、貨物便は北九州とか佐賀でやるとか、そういう考え方ですよね。佐賀の方とか北九州の方が納得されるかどうかは別ですけれども、仁川みたいな大きい空港をつくるのではなくて、例えば、地域全体で、北部九州全体で仁川並みの効率を出すんだという目標を立てる。これは都市圏を超えた話ですけれども、そういう施策を福岡が中心になってやっていくというぐらいの話が書いていないと、今の滑走路でぎりぎりのところまで伸ばしましようと言っても、新しい飛行機を開発するのに20年、30年かかりますからね、そう簡単ではないと思います。その辺をぜひ検討していただきたいと思います。

○星野部会長 ほかに福岡がモデルとして示せるようなものは何かございますでしょうか。
委員、お願いします。

○委員 アジアのモデルというふうに考えたとき、私はおもしろいものが三つあると思っています、一つは、さっき言われたグリーン物流という部分の特異性を出していくというところですよね。

あと二つ目、三つ目ということで、私は福岡市ということで考えたときに、地域間交流の拠点になってほしいなと思うんですね。どういう意味かというと、アジアとか世界で見たときに、みんなが、やれ今からは中国がマーケットだ、やれアメリカだというのではなくて、例えばベンチマーク協議会がありますよね。世界の似たような規模間の都市で、ノウハウをいろいろ共有したりしていく。私はそのあたりの都市間でもっとビジネスをすればいいと思うんですね。ただ情報交換とか云々じゃなくて、そこの都市でやっているようなビジネスや、その都市同士でもっと貿易をしたりということで、要は地域でうまく伸びていくようなアジアの中でのモデル都市になればいいのかなという思いが一点ですね。

背景として、クロスエイジという会社は農産物の卸売をやっていますけれども、東京方面とか別に目指していないんですね。基本的には岡山や三重のスーパーとか、香川の生協とか、ローカル・ツー・ローカルでビジネスをずっと広げてきて、農産物を動

かしている。それと同じような発想で、アジアのモデルとなるのであれば、多分、中国とかを目指したって福岡市は横綱相撲ができる都市ではないと思うので、だったら全世界で見たときのローカル・ツー・ローカルで伸びていくような都市になっていったら私はおもしろいと思います。

3点目として、モデルと考えたときに、私は、福岡証券取引所が今後どうなっていったらいいかな、どうしていったらいいかなということを考えたりするんですけども、少なくとも取扱高とか上場企業数とかでトップを張るというのは非現実的ですよね。ただ、上場している会社が一個もつぶれていないだとか、あるいは地場に密着していて毎年10%、20%伸びていっているような企業が基本的に上場していますということはあり得ると思うんです。要は社会的な企業が上場して、そこを応援したいという投資家が全世界から集まってくる、アジアから集まってくる、そういうマーケットにしていくというのが一つのモデルとしての形かなと思っているんですね。

私も今いろいろ勉強している社長の仲間内とかでいろいろ話しています。クロスエイジというのは基本的に社会的な、農業を何とかしたい、農業の課題を事業を通じて解決したいということで起業していますが、一緒に勉強している隣の人間はいったら、自治体の歳入を確保するための広告代理店を立ち上げてやっている。その隣の人は、葬儀業界を変えるということで、葬儀業界でベンチャーをやっている女性の経営者だったりする。福岡ってそういう特色のある会社が結構多くて、そういうところが集まってくるマーケットであって、そういうところがおもしろいなと思える人たちが投資してくるようなスキームができ上がれば、それはアジアのモデルとして可能性があるのかなと思います。

長くなりましたが、モデルということを考えたら、そういうところを目指したらおもしろいのかなと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。

今、確かに福岡がアジアの最先端を目指そうと思っても難しいので、福岡らしさが売りになるものは何かということで、3点ご提案をいただきました。

お願いします。

○委員 先ほど福岡空港のことをおっしゃられましたけれども、福岡市さんのデータを見ると、利用者数は減っているんですね。2000年には約2,000万人利用していたのが、2010年には1,634万人ぐらいに減っているんです。ということであれば、目標に福岡空港の乗客数の増加も入れていいのかなと思います。空港というのは、大事な手段の一つだと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。

今、利用者数の話もありましたし、世界とつながるということでは、今ヨーロッパに直接乗り入れという話も来ているようですけれども、路線の数、それもアジアに限定せず、もう少し広くという広域性と、もう一つ、リージョナルなつながりというものがもう少しあってもいいのかと思います。

あと、2022年を意識しているのであれば、七隈線も全通しますし、環状線もでき上がったので、もしこれらの公共交通機関を使って非常に快適に通勤できるようなシステムができているのであれば、それもまたモデルになり得ると思います。ですから、広域性と、藤野委員にお話しいただいた地域間の交流、あるいはもっと都市の中での利便性を高める、そういうことが福岡の売りにはなるかもしれませんですね。ありがとうございます。

今、地域のことが出てきましたが、おそらく空間構成目標を説明いただいてから、もう一度ここに戻ってきたほうがいいかなと思うので、空間構成目標について説明いただけますでしょうか。

○事務局（藤本） それでは、資料5の空間構成目標についてご説明させていただきます。

この空間構成目標は、今まで八つの目標は分野別の目標、分野別にどういう状態を目指すかということで、それに対して空間としてどういったまちの姿にするかということになります。

1ページをお開きください。51ページというところから始まっておりますが、これはもともとの基本計画のページでつくっております。一番上から行きます。空間構成目標は、皆さんの活動の場となる空間をどのように形成して、どういう利用の空間とするかを目標として示したもので、基本計画とあわせて10年間はこういったまちづくりを進めています。

空間構成に係る現状と課題ということですが、福岡市は都心部を中心にY字型の都市構造がもともとできておりましたが、その後、都市高速道路や外環状道路、そして地下鉄などの鉄道網ができ、放射型の都市軸が形成され、都市の骨格が明確になってきています。

陸海空の広域の交通ネットワークや都市機能が充実して、日本・九州各地はもとより、アジア・世界へ向けた国際的な交流の軸ができています。

また、経済社会がグローバル化しまして、国境を越えて経済活動が活発に行われるようになり、国際的に魅力のある都市に人とか投資が集中するようになってきましたので、国際競争力のある都市づくりが今求められています。

一方、高齢化が進む中、まちの利便性や円滑に移動できる交通手段という市民生活の

質を確保することも必要になっています。

福岡都市圏については、豊かな自然環境に囲まれる中、都市交通の利便性の高い交通ネットワークで結ばれまして、一体的な都市空間を形成しています。

次、52ページをお願いいたします。このような中、目指す姿、これがそれぞれの分野別目標の目指す姿に対応しますが、海や山に囲まれた地形的な特徴を生かし、都心部を中心にまとまりのある空間的にコンパクトな市街地になっていて、都市的な魅力と自然環境が調和しているというのが1点です。

もう一つが、福岡市の成長のエンジンである都心部を中心に、都市の成長を推進する活力創造拠点、また市民生活の核となる東部や南部・西部の拠点、地域拠点など、いろいろな拠点に多様な都市機能が集積して、市民活動の場が提供され、その間を公共交通ネットワークで円滑に移動でき、コンパクトにいろいろな活動ができる。その二つを合わせた福岡型のコンパクトな都市を実現しているということを目指す姿として掲げています。

今の上の二つの丸のところが、一番下に絵でかいてあります。左側が空間としての全体的なコンパクトさ、右側がそれぞれの拠点がネットワークされたコンパクトさということで、福岡市におけるコンパクトな都市の概念をまとめております。

そしてその次に、都心部から書いておりますが、これは右側の空間構想図と対応して見ていただきたいと思います。福岡市の成長エンジンである都心部には、広域的な都市機能、国際競争力を備えた高度な都市機能が集積しています。活力創造拠点ということで、アイランドシティ、九州大学、シーサイドももち、その三つの点につきましては活力創造拠点ということで、拠点の特性に応じて物流や情報、研究開発など、福岡市の成長を推進する機能が集積している。

あと地域の拠点ということで、香椎、千早、大橋、西新、藤崎という東部・南部・西部の拠点、それから水色でかいております和白、箱崎、野芥といった地域拠点に、まちの成り立ちや交通結節の機能などに応じて、市民生活に必要な機能が適正に集約されている。

その次、点ではなくて面としての市街地としては、身近なところに市民生活に必要な機能が備わって、日常生活圏がきちんと形成されている。

その次のところは機能を充実・転換する地区ということで、今後10年間で機能を変えていくような地区でございますが、九州大学の箱崎キャンパス地区では新しいまちづくりが進んでいるというのが一点。あと舞鶴公園・大濠公園地区については、先ほどセントラルパークということでお話をありがとうございましたが、多くの市民の憩いの場、また多くの観光客を集めた地域になっているところです。

交通ネットワークについては、それぞれの拠点間が公共交通機関でネットワークされ

ていたり、また身近な生活交通が確保されて、多様な都市活動や市民生活を支える移動が円滑に行われる状況を目指しているところです。それぞれの拠点については、右側の絵に落としています。

めくっていただきまして、54ページにつきましては、今の拠点の中身を少し細かく書いておりますが、ここを説明すると長くなりますので、省略させていただきます。

55ページは細かく、専門的になりますが、空間構成目標の実現に向けた土地利用の方向性ということで、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るために、市街化区域と市街化調整区域ということで区域区分について適切に運用していきますというのが一つです。

市街化区域の拡大を必要最小限に抑えて、自然環境や農地、そして良好な緑地を保全します。また既存市街地や現在の計画的開発地域を中心に、必要な都市機能を受け入れていきます。

標高80メートル以上の樹林地や、和白・今津などの都市の貴重な自然を保全していくとともに、「緑の腕」ですとか水と緑のネットワークを形成するなど、生物多様性の保全を図っていきますというのが、大きな三つの方向性ということです。

その次の真ん中のところが、市街化区域の土地利用の方向性ということで、市街化区域については、都心部から市街地周辺部にかけて段階的な密度構成を図っていくということで、めり張りのきいた市街地形成を図っていきます。

都市活力の中心となる都心部など、高度な集積を図るエリアにおいては、質の高い高度利用された市街地を誘導しまして、市民生活の核となるところについては、既存のストックを最大限に活用し、適切な高度利用ですとか土地の有効利用をしていきます。

あと、市民生活の基盤となる住宅地においては、利便性の高い生活環境を形成したり、地域の特性に応じた住環境づくりをするエリアにおいては、地域の主体的なまちづくりの取り組みを支援していきます。

市街化調整区域の土地利用の方向性について、市街化を抑制する市街化調整区域については、保全すべき区域を明確化して保全に努めるとともに、活性化を図ることが必要な地域については、いろいろな調整を図りながら主体的なまちづくりを支援します。市街化調整区域のうち、良好な市街地整備が確実に実施される地区については、計画的なまちづくりを誘導していきます。

56ページ、最後に空間構成目標の実現に向けた交通体系ということで、交通体系の基本的な方向性としては、都心部を中心に市民生活の核となる拠点をつなぐ都市軸を骨格として、ネットワークを充実・強化します。また、既存の交通基盤を生かしながら、結節機能の充実・強化をしたり、鉄道やバスなどの公共交通を主軸として、多様な交通手段が相互に連携した総合交通体系をしっかりと確立していきます。

次に、「都市の成長」を支える交通体系の方向性としては、広域的な交流を促進するための広域交通拠点の充実・強化ですとか、連携して都心部の回遊性の向上などを図ります。また、新たな活力を創造する拠点へのアクセスを向上していきます。

「生活の質の高さ」を支える交通体系としては、日常生活の核となる拠点へのアクセスや日常生活を支える生活交通の確保を図っていきます。

以上で資料の説明は終わりです。

○星野部会長 はい、ありがとうございます。

今、空間構成目標をお話しいただきましたけれども、ここで示された豊かな自然と都市機能のバランスこそ、福岡のモデルとして外に発信できるものだというふうにご説明いただきました。

光山部長、お願いします。

○事務局（光山） 少し補足の説明をさせていただきます。

これまでの基本計画との違いといたしましては、これまで多角連携型都市づくりというものを福岡市のまちづくりの方向性として掲げておりました。今回は福岡型のコンパクトな都市を目指していくという姿に大きく変更させていただいているところが、まず1点です。

それから、東部・南部・西部というご説明が先ほどありました。東部では香椎、千早、南部では大橋、それから西部では西新、藤崎です。これは今まで「副都心」という表現をとっておりましたけれども、都市機能としての整理がなかなか難しいこともありますと、「副都心」という用語を今回からは外しまして、「東部・南部・西部の拠点」という言葉の整理をしています。

さらには、機能を充実・転換する地域として、新たに箱崎キャンパス跡地、それから先ほどセントラルパーク構想等のお話がありました舞鶴公園や大濠公園地区、ここを新しい拠点として位置づけをさせていただいているというところが、今回の空間構成目標の変更点です。よろしくお願いします。

○星野部会長 ありがとうございました。

何か、この空間構想についてご質問、コメントはいかがでしょうか。この空間構想図を見ると、中がコンパクトな都市であり、それが地域、周辺都市とつながっていて、かつ広域的に世界、アジアの各都市とつながる都市を目指すということが示されているわけですけれども、何かご質問、コメントいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 10年後というと、こここのビルもそうですけれども、高さ制限の撤廃というか、飛行場の問題がありますね。今、飛行機はYS-11じゃないから性能はよくなっているんで、そこらあたりの働きかけというか、ビルの建てかえを含めて検討ください。アジアの都市で、これだけ低いビルだけの都市って珍しいんですよね。そこらあたりが一つです。

もう一つは、以前の有識者のヒアリングの中にも出ていましたけれども、競艇場に向かう渡辺通り、北インターからおると、ソウル並みのラッシュというか、バンコク並みというか、ほとんど機能しない。アジアへ誇ると言ったって、これは誇れないというか、ここでとまっているわけですよね。ここをうまく流す方法はありませんか。大阪の御堂筋は一方通行にしていますけれども、そういうインフラの整備について、10年では遅いので、5年ぐらいで実現いただきたいと思います。例えば、あそこに拠点を設けるということもあると思います。空港と港と鉄道という話がありましたけれども、もう一つはバス、高速バス、車というのもすごく重要なと思います。あそこから、そして富山のようなLRTがいいのかどうか、そこらあたりも含めて、都心部はもう麻痺しているということが問題ではないかと思います。

○星野部会長 はい、どうぞ。

○事務局（光山） 今、都心における建物の高さ制限の話と、もう一つは競艇場というか、都心の交通渋滞のお話の2点があったかと思います。

福岡は空港が都心に近いところにあるということで、高さ制限がかかっておりまます。現段階として空港移転の話はなく、増設に向けて動いていて、ここら辺は少し担当部局とご相談をさせていただきたいとは思いますけれども、正直なかなか難しいところだと理解しております。

○事務局（住宅都市局） 都市計画の者ですけれども、とりあえず現状だけ話させていただきますと、空港が近くにありますので、航空法の関係で全般的に高さ制限がかかっておりまして、天神あたりでは60メートル前後のビルまでしか建てられないという現状です。

○星野部会長 今のお話は、委員が先ほど質問された、例えば機種が変わっても高さ制限というのは航空法で変わっていないということですか。

○事務局（住宅都市局） 今度ダブルの滑走路になります。そこでまたいろいろな航空法

に基づく高さの話がありますので、そんなに緩和されるという形にはならないのではないかと思います。

○星野部会長 先ほどの市内の渋滞の緩和についてはいかがでしょうか。

○事務局（住宅都市局） 市内の渋滞の緩和につきましては、経年的に天神への入り込みの交通量を調べています。例えば、先ほど説明がありましたように、福岡の構造がY字型ということで、ほとんどの車が都心部を通過する必要があったのが、近年、外環状道路ができまして、もうすぐ都市高速道路も環状型になるということで、道路体系についてもかなりネットワークができてまいりました。それとあわせて、従前から地下鉄、バス、公共交通の使いやすさを高めてきたということもありまして、トータルとして天神地域に流入してくる交通量は、今日はデータがありませんけれども、データ上でも減少しております。

ただ一方で、今ご指摘いただきましたように、天神の入り口の部分で局所的な渋滞等が見られますので、こういった部分について、できればうまくソフト面も含めて誘導しながら、公共交通のほうに移していくという取り組みをしております。ただ、どうしても一点に集中するので、平日の交通は減ってきておりますが、休日は都市高速を通って、特に渡辺通りの交通量は逆に増えてきている現状がございまして、こういったところは非常に課題になっております。

○星野部会長 ありがとうございます。どうぞ。

○事務局（光山） 記載も含めて少し検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○星野部会長 それでは、空間構成目標はこれでよろしいでしょうか。

○委員 三つあります。まず、事務局長をさせていただいている福岡地域戦略推進協議会では、今年度は福岡市と一体となって都市開発の戦略を描こうとしていますので、ここに書いてある内容を産官学民で共有できるような形にするお手伝いを、ぜひさせていただきたいと思っています。

その際に、これまでの産官学民での議論の視点として、ここに盛り込むことをご検討いただきたいと思っていることが三つありますので申し上げます。一つ目が、先ほど安浦委員のお話にもあったとおり、外からの投資を受け入れて都市環境の整備を進めると

いうのが基本的なスタート地点だとすると、投資を受け入れるに当たって、経済産業政策と都市計画の連動をぜひ図っていただきたいと思っています。これは多分、日本の都市計画で今まであまりできていなかった難しい部分で、まさに福岡市さんが先鞭をとつてチャレンジしていただきたいと思っているんですが、どこにどのような機能を集積させるかを極力具体的な空間の言葉に落としてほしいと思っています。

例えば今の記述でいくと、活力創造拠点と箱崎の記述を読み、さらに都心の記述を読むと、すべての産業がすべての場所に行きたい気がするんですね。アイランドシティでも伊都でも箱崎でも都心でも、全部新しい産業と書いてある。これは外から投資をする人間から見ると、根幹にある考え方がわからないというメッセージになっていますので、空間タイプや立地特性に応じて、おおよそどのようなタイプの産業をどこに誘導していくのかという議論を、総合計画なのか都市計画マスタープランなのかという議論はあると思うんですが、それをぜひ整理していただきたいと思っています。特に都心部の港湾のところなどは、物流港湾なのか人流なのかというあたりの記載も非常にぼやっとしています、大きな産業配置の話との連動が大事かなと思っています。

二つ目が質の話で、根本的にどういう価値でどういう空間をつくっていくのかという記述が、まあ各論のほうに入っているといえば入っているんですが、三つ大きな骨太の、今、大体世界中どこに行っても言っている議論を入れたほうがいいと思います。一つは環境配慮の話と、それから景観です。質の話が出てこないので、何もかもとは申しませんが、美しく居心地のいい都市をつくるという、質の目線をどこかに入れていきたいという話です。

三つ目が、説明の中にあったんですが、モビリティー、移動しやすさは、先ほど安浦委員の議論の中にもあったとおり生命線ですので、空港等の拠点からおののの産業の立地箇所まで、どのようなアクセスを供給するか、モビリティーを確保するかということは非常に重要だと思います。その考え方をどこかにきちんと入れていただきたいと思います。

最後が財政との連動なんですけれども、投資受け入れと同時に、ストックとフローの総量の問題があると思っていますし、市街地の拡大を抑制するということは書いてあるんですけども、現状、郊外の空室が非常に増えている団地の扱い等、そもそもバランスシートそのものが実際の財政状況に照らして過大である懸念はないのか。都市資産を減らすということまでも含めて、ストック全体をどの程度に持っていくのか、維持するのか、縮小するのかという観点を、ぜひ戦略的な都市経営を目指す上で入れていただきたいと思います。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。

非常に貴重なご意見をいただきました。ここでは都市総合計画を考えているわけですが、これには行政改革ともつながってくる、あるいは都市の経営政策の産業政策ともかかわってくる非常に重要なポイントです。少しそこにリンクさせた考え方をこの中に織り込むべきというお話をいただきましたし、おそらくもう一つの委員会のほうでは考えられているかと思いますけれども、環境、景観、モビリティー、この三つの要素をきちんと組み合わせるということをお話しいただきました。

ほかに、この空間構成目標でございますか。委員、お願いします。

○委員 最後になりました。先に皆さんと話したことを壊してもいけないと思い、今日は皆さんの話を聞こうということにしていました。

まず、福岡市総合計画と施策検討用参考資料他までをこの3日間じっくり読んでみました。非常によく整理されていますね。総合計画書を読む限りどういう意味であろうと思う事も参考資料を読むと綺麗に整理されています。ただ市民がこの総合計画を見たとき、説明資料がでていなければわかりづらいだろうと思うし、説明資料まで読むだろうかと思いました。

今回の審議会はどこまで構想するか、どこまで計画するか、施策をどこまで盛り込むのか、そしてどれだけ市民に分かり易く作るかだと思います。私、こだわるわけではありませんが、四つの都市像について1は大きなスローガンで、1、2、3、4を1、2、3としたらと思います。

今日も討議が進むほど、どう纏めたらいいのだろうかと思っています。

例えば住みたいまちはもう一つの部会で討議審議をおこなっていますが、5と6と7のところで、行ってみたいまち、働きたいまちは無理に目標を二つづつ作っているように思えます。6のところを一つにしてしまった方が判りやすいのではないかでしょうか。最後の働きたいまち、要するにビジネスが活発に行われているまちでは、「産業が活発で多くの雇用が生まれる」が一つと6の「創造的活動が活発で新しい価値を生むまち」、3番目に「国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている」というふうなにまとめかえた方が、市民にとってわかりやすいと思います。都市像と目標を関連づけていますが、四つの都市像、もしくは三つの都市像と目標を切り離してはどうでしょうか。都市像と目標(1~8)は夫々関連があります。そして施策の中で空港はどうある、港はどうある、市内の交通はどうある、都心部の緑化はどうだとか、そういう形に持つて行った方が判りやすいのかと思っています。空港の問題であれば国際線への乗り継ぎ、国際線の滑走路複線化の早期着工、貨物・人を含めて福岡・北九州・佐賀の機能分担とかをある程度具体的に入れた方が見る人にとってわかりやすい。それと外国人が住みやすい街、

外国人がきたいまちとはどういうまちかとか、そういう纏め方で整理されたほうがよくないでしょうか。

○事務局（藤本） 確認だけさせていただきます。一応、今委員のおっしゃった基本構想、基本計画の部分と別に、施策検討用資料ということでつけさせていただいたものが、そのままではないんですが、そういった内容が実施計画のほうに入っていきますので、総合審議会、答申をいただくところは計画まででいただきますが、同じような内容を実施計画という形でまとめて出しますので……。

○委員 1冊の資料の中にこれが入ると。

○事務局（藤本） 1冊にするのか別冊にするのかはあれなんですけれども、総合計画のまとまりとして、そこまでは全体で入るようになるというのが一つです。

あと、都市像の四つの分け方につきましては、生活の質のほうの部会でも、逆にこの四つはバランスがいいのでよいとか、いろいろなご意見をいただいているので、そこはあわせて考えさせていただきたいと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。それでは、その部分は事務局のほうでご検討ください。

予定した時間もあと5分を切りましたけれども、目標5、6、7、8と設定されている中で、今、委員から5と6は合わせたほうがいいのではないかというご意見をいただいたのと、先ほどの議論の中で、6番の革新・創造性を持った産業と7番の産業全般というものは大きくかぶる部分がある、これを分割しておく必要があるかどうかという議論も出ました。この5、6、7、8の設定についてご意見いかがでしょうか。

○事務局（光山） 少し補足の説明をさせていただきます。

委員ご指摘のとおり、目標6、目標7あたりはほとんどかぶっているところがあって、実は今回の総合計画としては、目標6のクリエイティブシティについて、いわゆる創造産業が今後の福岡市の産業を牽引していくのではないかということで、あえて切り出してチャレンジさせていただいているというつくりになっております。通常だと、これまで目標7のくくりで整理をさせていただいているところなんですが、ここは今後非常に大事になっていくだろうという思いも込めまして、星野部会長からは、もともとのベースの施策とか事業が薄いのではないかというご指摘も受けておりますけれども、事務局としてはあえてここを切り出して、こういう整理をさせていただいている。補足でご

ざいました。

○星野部会長 わかりました。今お話しいただいたように、創造性・革新性を持った産業を生み出すような具体的な中身は、今日のいろいろなご議論がきちんと反映されて、それが2022年の福岡で花開くということがきちんとこの中で押さえられるのであれば、あえて重点化をして6を分離することも可能だと思います。ありがとうございます。

ほかにご意見いかがでしょうか。この四つに分けてあること、この内容全般ですね。今日いただいたご意見をもとに修正案をつくって、もう一度ごらんいただくことになりますけれども、何かこの時点での大きな分け方その他についてご意見があれば出していただきたいと思います。

安浦会長、お願いします。

○安浦会長 今のお話だと、6と7というのは入れかえたほうがいいのではないかと思うんですね。7のほうがジェネラルで、6のほうが将来を見据えた新しい仕掛けという視点であれば、その特徴的なところがアジアのモデル都市に一番つながるはずなので、そこを入れかえてみるというのも一つの手ではないかと思います。

○星野部会長 全般的な産業について先に目標6として出して、特に8は、最後の目標8にあるアジアのモデル都市の一つの要素として、こういう戦略性を持って産業を育てて、それがモデルの一部になっていくという順番ですね。私もそのお考えに賛成です。特に事務局のほうで、それは問題ありませんか。

○事務局（藤本） 今は5、6が都市像の3に合わせてあります、7と8が都市像の4に合わせてありますので、その並びをどうするかという問題がありますが、検討してみたいと思います。

○星野部会長 ほかに、よろしいでしょうか。もし今の時点でコメントが特になくて、後ほど気がついたことがあれば、また事務局にお送りいただき、次回までの修正に反映させるということでよろしければこれで今日の議論を閉めさせていただきますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 ありがとうございました。非常に活発なご意見をいただきまして、この素案、ドラフトが非常に中身のあるものになってきたように思います。ぜひ意見をうまく反映していただいて、次回のディスカッションでまた改めてお話をいただきたいと思い

ます。

それでは、事務局のほうからいかがでしょうか。

次回以降の日程について

○事務局（藤本） 次回は8月3日に部会の3回目を開催いたします。その際には、1回目と2回目で議論させていただいたものを反映いたしまして、修正案という形でご提示させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。また正式にご案内差し上げますので、よろしくお願ひします。

あと、先ほど部会長のほうからありましたとおり、ご意見で今日言えなかつたところとかございましたら、ファクスなりメールなりでぜひお寄せいただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。

次回は8月3日の15時半から、またここ同じ場所で開催いたしますので、よろしくお願ひいたします。

3 閉会

○星野部会長 それでは、これで終わりたいと思います。どうもお疲れさまでした。

閉 会